

Sydney

浦嶋恭司

ロス到着、12時15分、税関にてトゥールロ  
ールで紛失、約1時間半空港を紛失手続きの  
ためさまより。ラゲージオフィスで手続をや  
つと終えるが疲労感増大、日本語を忘れた  
日本人のホテルビジネスマンに会う。その夜  
彼のホテルに泊る。時差のため、寝不足がみ  
聖朝、デンバーに飛び、ジャクソンへ行くの  
であるが、デンバーの時間とロスのそれとの  
差に気がつかない。そのため今エソクイ  
ンに遅れたがラッキーなことに最後部の2座  
席だけが残っていた。

ジャクソンシティに到着、ジャクソン空港  
のまわりには、たれ一軒の人家が見えるだけ

であった。空港で車を拾おうとして、ラゲージサ  
ービスの所に座っていた山丘家に、「ここから、デ  
ンバーまで、ジャクソンシティは、近い」と聞いたら、「近  
くは、近事か、来たので距離を聞いたら、ここ  
まで、21キロである。彼は全然不意でそれを言  
てくれた。21キロを走りと言っているのである。  
これには、驚きだった。この時、アメリカの山下さ  
を知らされたような気がした。工具を失った以上  
自転車は、組み立てられたい。車で行くほうが  
た。ちよつと空港に来たビジネスマンにそれを  
交渉しようとした時、遠くの道をこちらへ向って  
バイクが2人来るのが見えるのである。彼らは  
空港に水を求めて来たのである。彼らに行く先  
を聞いたら、ジャクソンシティに行くという。  
工具をかしてもらい自転車を組み上げた。それを

見ていた彼等は、シートピンのクイックとニ  
分式のマッドガードに驚ろけていた。二人は  
ビルとチャックという名前である。ビルは  
ハイスクリルの大学の先生であり、ミシガン  
州立大学で数学を学び、二人の日本人教壇に  
おちつたといつていた。そういうわけが、私  
たちにひじょうに親切にしてくれた。チャッ  
クは、セールスマンである。彼の英語は、ひ  
じょうにくせがあり、はきりわからぬ、  
よ、てあまり話をしなかつた。口スを出ると  
き日本には、ワイオミングでは、会えまい  
と思つてゐたがジャクソンシティの人口で日  
本人のバイカーに会つた。知夫という名前  
でチームリーダーである。世界各地を自転車で  
走つて来た人でバイカーとしてテレビ、新聞

に出た人である。アメリカで走るといふことは、  
ひじょうにのこのかぬことである。なお知夫は  
日本語以外に、ロシア語をペラペラのペラである。  
集合場所であるスキーヒュッテに着く。キーバ  
ーと事故者二人ガリた。その晩、カントリバー  
で楽しくジョイ、チャック、ビルと夫に過ごした。  
次の晩、またバーに行つたら、ミストラレスに、  
「ワ儀以下は、入らざるだめ」と言われまして、  
その次の晩チームのメンバーが、全員そろつた。  
リーダーが、チャック、ブララン（アリゾナ大学  
講師、前述のチャックとは別人）である。メンバ  
ーは、スタン、ビル、レイ、ドン、ジャック、エド  
と私たち二人である。翌日、グランドライトン  
まで往復80キロを走る、帰りに大雨にあつた。  
その次の日の朝6時ユルターベイに向かい出発

ジャックソンのレイクダムまでエドといしよに走  
った。彼は、疲れたようだった。ゴルターベ  
イの晩は、劇を見て楽しんだ。ガキが空手ご  
こをして遊ぶところをよく見かけた。

翌朝、6時、非常に寒い朝だった。手袋を持  
って来た。たのめ、手が凍りつきそうであ  
った。スタンとこい、しよにぎうと走った。彼  
は、宇宙衛星の技師である。彼は、女に目  
がない。少しかわいい人がいると「Pretty

girl」とすぐ口走るのである。ユーモア  
もあり、ウイズダムで寝る前に彼が茶を飲ん  
だのだ。た。それを見ている。彼は、  
自分の股のあたりを指さして言、たのた。た。

「Get Rigger」

オールドフェイスフルに到着。そこは、ス

グリングがたくさんあり。その一つはオールドフ  
ェイスフルでリウのがある。それは、30と90分お  
きに、地熱により地下水をふき出す。その高さは、  
30と50mである。それを待ちまわりには座る人々は

ほんとうに「funny」である。そのキャピンの  
食堂は、実によか。た食べ放題、飲み放題であ  
った。翌日、レイ、ドン、ビルは、フロウティンク  
に出かけた。残りの人は、エロキアの運転してき  
たジャックの車でイエローストーンレイク園遊を  
ドライブした。実に暇むか、た。

リースクエイクパークまでの道は、「Easy  
today」である。た。目的地まで通過する  
町は、二、三であるあるが、ビル、レイ、ドン

の三は、町につくと、ドーヒ入、てビルを  
飲んでる。バーの前の自転車を、見つけて、

私も入って行った。ビルはよくビールをおご  
ってもらった。ビルは、私たちが二人を除いた  
チームでた一人のスモーカーである。彼は  
私に会って「How are you doing,  
Joe?」と言うのである。Joeは私の  
は、チャックが私につけたショートネームで  
ある。

バージニアシナイまでの道は、「No + easy」  
山越えする前の町を走っていた。「おもしろい」  
と笛吹いた。私は、日本語が聞こえたように  
気がしたので止めた。そして後を見た。  
高価なボルシェエから降りて来たのは、なん  
と和夫であった。再会できるとは、思っても  
みなかった。彼は、走りよってきてミスター  
の二つを知らせてくれた。

その後が大変問題のある坂である。頂上までにあ  
る日影は、道のそばにたた一本ある木が作るもの  
だけである。頂上まで坂は、延々と20km続く。  
日は、照りつける。この坂で鴨沢 (my partner)  
がわざをりためた。

バージニアシナイに私はレイとい。しまに着いた。  
いつものようにバーに入ってビールを一杯。隣席  
であ。たおじりさんところりウケガ仲良くなり  
ビールをおご。てもらたり、ビリヤードをしてあ  
そんだ。そこのバーの女の子が言ったのは、

「Is Japan smaller than Montana?」  
この大団に住んでいて日本を見るところ見えるの  
も当然である。おじりさんは、エヌエヌを経験し  
てりるが、日本軍に対して、ゼッたらしい言葉は  
返してこなかった。

バージニアシティでタイプとりの大工さん  
とも仲よく暮らした。彼は、同じ方向へ行く大  
イカーで、この後、フリスビーなどをしてよ  
く遊んだ。

この後は、広々とした牧場の中を走ること  
が多く、町の数は、少なく、町の大きさま  
小さかった。

ウィズダム町までは、ひじょうに苦しか  
った。朝6時に出発し、大主奈山を又つ越え  
て昼食を取った。その午後5時であり、その  
町からウィズダムまでが砂利道であった。

Chuck got sick. ビールを飲んでキ  
ャックは酔った。チャックがベッドに寝て  
た。いつものようにジョークの多い夜では  
なかつた。

デーロンの町では、Western Montana  
Universityのキチンに泊った。この大衆  
の設備には驚きだった。また、木工など見のもの  
にたがめらる。Lodge Roomでタイプと  
ビリヤードをノーカーでやっていた。

ミズラはMontana Universityにある。  
この大学もすく設備がいい、学食は、まるで日  
本のレストランでLounge Roomには、ホーリ  
ング場まである。ミズラの町は、ほんとにいい  
町である。町で2、3回会った日本人は、はじめ  
て話しかけた時、「あんな日本人だ、たのし」と感  
てきた。この町で旅も終りである。チャック  
は、裸足で送ってくれた。タイプは、自転車に乗  
って両手ばなしで、ジョークを言っていた。  
ほんとうにいい旅だった。

—なる日の部誌—

新春才①弾♪  
恐怖ハニック映画♪

# ナトーリング・イツフェル

[配役] 名取組組長 名取<sup>×1</sup>名 ... 名取氏  
鈴木組組長 鈴木鈴 ... 鈴木氏②  
名取組部下 小野野小 ... 小野氏  
消防士 曾我部曾夫 ... 曾我部氏  
一回休み ... 沢木氏

[あらすじ] 表向きは土木業である名取組は 実は暴力組織であった。組長名取はタバコのすいすぎで歯が黒くなってしまった。スタイルを気にする名取は、ハニックという歯を白くする薬を買いに行く。しかし その店は カタキとある、鈴木組が支配していた。鈴木組は名取に、ハニックとみせかけ、違う薬を売った。そのため名取は歯がとけてなくなってしまった。部下の小野が鈴木組の陰謀をキャッチし名取に伝える。力のない名取組は、鈴木組の新築作業を請け負い、ガタガタな家を作ってしまう。そして、放火までしてしまうのである。家から逃げられなくなった鈴木鈴を、勇敢な 曾我部 曾夫 消防士が助ける 一大ハニックハニック映画である。

[上映時間] 39分

[配給] TITCC TO

[脚色] NF CO. LTD.

6月公開予定